

## 江戸の坂道散策

## 庚嶺坂 (新宿区)



# 山野 勝

Yamano Masaru  
坂道研究家

1943年、広島県生まれ。早稲田大学政経学部新聞学科卒業。報知新聞社を経て講談社に入社。「ヤングマガジン」編集長、第3編集局長、取締役、常務取締役を務めた。この十数年、東京の坂道を積極的に歩き、エッセイや講演などで坂道ブームの火付け役。著書に『江戸の坂——東京・歴史散歩ガイド』（朝日新聞出版）、『江戸と東京の坂』『古地図で歩く江戸と東京の坂』（以上、日本文芸社）がある。

## 新

宿区の神楽坂一丁目1と市谷船河原町11の間に、庚嶺坂という変わった名前の坂がある。外堀通りから、若宮町の神楽坂若宮八幡神社へ向かって上る急坂だ。西側（左）に赤れんがの塀が続き、石垣から垂れさがったオカメツタの緑が、坂にアクセントをつけている。右へ湾曲する姿も優雅で美しい。

坂名の由来は、中国の梅の名所だった庚嶺（江西省大庾県）に因む。江戸時代初期には、この坂一帯に梅林が広がっていた。2代将軍・徳川秀忠がこの梅を觀賞するために当地を訪れたとき、あまりの美しさに息をのみ、まるで庚嶺の梅のようだといい、この坂に庚嶺坂の名を冠したという。

また、この坂は唯念坂、行人坂、幽霊坂、祐玄坂、祐念坂、若宮坂、新坂など、多くの別名を持っていることで知られる。唯念坂の名は、唯念という僧がこの坂脇に小庵を構えていたからという。行人は修業僧のことで、ここでは唯念のことを指す。幽霊坂は唯念坂のなまり。祐玄坂は祐玄という医師の名からだ、この近くに住んでいたと思われる。祐念

**コウム坂 一服茶屋**

本文中の庚嶺坂の他に、将軍が関係した坂がある。文京区小日向四丁目3と4の間に藤坂という坂がある（別名を富士坂・禿坂ともいう）。慶安3年（1650）、3代将軍・家光が鷹狩りの帰途、伝明院という寺に立ち寄った。伝明院の境内には藤の名木があった。家光はこの藤の花の見事さを賞美して、伝明院を藤寺と命名した。それ以後、寺の西脇を走る坂は藤坂と呼ばれるようになった。

は祐玄と唯念の混同。若宮坂は坂上にある若宮神社から。新坂は新しく開設されたときに名づけられた。このように、坂の名は町人が思いのままに命名したものが残っているわけで、決して珍しいことではないのだ。若宮神社は文治5年（1189）に、源頼朝が奥州征討の際に立ち寄り、戦勝御礼として鎌倉鶴岡八幡宮の若宮八幡を勧請したと伝える。その後、太田道灌が江戸城鎮護のために再興したという。



坂上にある神楽坂若宮八幡神社。

庚嶺坂アクセス ▶ JR飯田橋駅西口を出て右折し、外堀通りを横断して左折。野村證券飯田橋支店脇を右折すると庚嶺坂の上り。徒歩5分。